

## 韓国微生物検査学会(KSCLM)参加報告書

参加者: 7 名 (国際委員 2 名; 島川、静野)

島川宏一(国立感染症研究所 所外研究員)	上地幸平(京都橘大学)
中山麻美(東北大学)	引田芳恵(甲南医療センター)
長沢光章(国際医療福祉大学)	元野紀子(国際医療福祉大学)
静野健一(千葉市立海浜病院)	

〔行程〕 : 10 月 30 日(木) 渡韓・ソウル市内にて合流

31 日(金) 検査室見学; GC Labs(Green Cross Laboratories)

11 月 1 日(土) 대한임상미생물검사학회 학술대회 参加

(第 35 回大韓臨床微生物検査学会秋季学術大会)

会場: Chung-Ang University Hospital

検査室見学: 同病院

日韓技師会議

2 日(日) 解散・各自帰国

〔発表〕 日韓合同シンポジウム:

「Current Status and Challenges of Antimicrobial Susceptibility  
and Drug-resistance Testing in Japan」 Kohei UECHI

ポスター発表

「Evaluating the effectiveness of turnaround time (TAT) monitoring as a quality indicator in  
clinical microbiology laboratories」 Asami NAKAYAMA

「Detection of Antimicrobial-Resistant Organisms(AROs) at Konan Medical Center over the  
past 5 years and progress toward achieving targets under the National Action Plan on  
Antimicrobial Resistance (AMR)」 Yosie HIKITA

2025 年 11 月 1 日に開催された第 35 回大韓臨床微生物検査学会秋季学術集会に、学会員 7 名が参加しました。シンポジウムおよびポスター発表を行い、また、学会前日に検査センター GC Labs(Green Cross Laboratories)見学、学会当日は会場病院の検査室見学を行う機会を得ました。

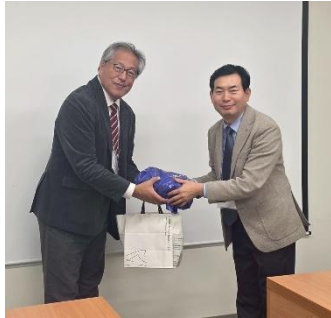
シンポジウムでは、上地先生が日本国内の薬剤感受性検査実施状況について発表されました。韓国側の発表では機器の使用状況(Vitek2 が多く Microscan は少数)の違いを認めるとともに、VRE、CPE など、日本に比べて分離状況が異なることが確認されました。

ポスター発表は 2 演題を行い、発表時間は 3 分と短いですが、聴講した韓国の技師から質問が寄せられていました。KSCLM でのポスター発表者には、学会より宿泊補助(2 泊分)がいただけるので、ぜひ興味のある方はご発表いただければと思います。

検査室見学で細菌検査室を訪問した際、インフルエンザ菌の検出方法として、ブドウ球菌を用いた

衛星現象により疑い、確認された場合サブカルチャーを行う(この時にチョコレート寒天培地使用)、という変わった手法が用いられておりました。培地の種類・使用方法についても両国間で比較すると様々な意見交換が行われるのではないかと考えられました。

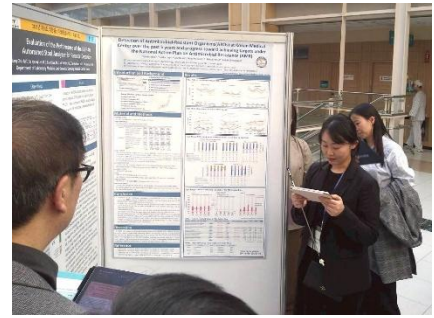
今回の会場は汝矣島(よいど)と呼ばれるエリアでしたが、来年は11月上旬にソウル市中心街(新村セブランス大学病院)を予定しているとのことです。夏ごろに学会ホームページに募集を出しますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。



ファン・ユン会長(右)と  
島川国際委員



上地先生



引田先生



中山先生



文責: 静野